

## 【Reference Review 60-1 号の研究動向・全分野から】

## アベノミクスの評価と課題

商学部教授 広瀬憲三

第 2 次安倍内閣発足後、3 本の矢（大胆な金融政策、機動的な財政政策、成長戦略）により長期にわたり停滞している日本経済を成長路線にのせようとする政策が打ち出され、アベノミクスといわれている。第 1 の矢である大胆な金融政策として、日本銀行の黒田総裁は 2%のインフレを目指して国債の購入等による市中への通貨供給量を増加させる金融緩和政策、第 2 の矢である公共投資などの政府による積極的な財政政策により、株価は大きく上昇し、為替レートは 80 円台から 100 円台へと円安が進み、景気は上向き基調となってきた。このアベノミクスについて、日本経済を成長路線に乗せると高く評価するものもあれば、インフレ、金利高を招き、日本経済にとって大きな打撃となるという意見、第 3 の矢がどのようなになるかが重要であるという意見など様々である。

原田泰論文（「アベノミクスを振り返る」『統計』65 巻 2 号 2014.2）はアベノミクスが始動してからの 1 年間の状況について検討をしている。第 1 の矢である大胆な金融緩和により景気を改善する方向へと向かっており大きな意味があるとしたうえで、物価は上がっているが賃金が上がっていないという批判に対して、賃金の支払総額は上がっており、今後労働市場の需給関係から賃金は上昇すると結論付けている。第 2 の矢である機動的な財政政策の効果について、公共投資は建設関係に集中するため建設関係の物価を大きく引き上げ、民間の投資に影響を与えるなど悪影響があり、かつ財政

的規律を弱めることになるので望ましくないと主張する。

財政健全化の重要性を述べたものとして、土居丈朗論文（『アベノミクス』の行方—3 本の矢を的に当てる弓＝財政健全化の必要性』『地銀協月報』644 号 2014.2）がある。土居論文はアベノミクスの「3 本の矢」が的確に的を得るためには、財政の健全化という「弓」が重要な役割を果たすと考え。社会保障をはじめ今後歳出要求が拡大する中で、今歳出の増加を抑えることは長期的に健全な成長のために必要であり、民間投資を喚起する成長戦略を成功させるためにも財政の健全化は重要である。国債の発行が増加し、金利が上がると民間企業の借入金利が上昇し、成長戦略にマイナスの影響を与える。財政の健全化が消費税の 10%への引き上げで達成されるわけではないが、もし、引き上げがなされない場合、基礎的財政収支の対 GDP 比率は改善されず、将来的に金利の上昇をもたらす、民間企業の投資を抑制し、成長の阻害要因となってしまうと指摘する。

八代尚宏論文（「アベノミクス成功のカギは構造改革」『地銀協月報』644 号 2014.2）は、アベノミクスが成功するためには、規制改革を通じて民間需要を拡大させると同時に社会保障支出の抑制により恒常的な財政赤字の均衡化という 2 つの構造改革を行うことが重要であると指摘する。

白川浩道論文（「アベノミクスは潜在成長率を押し上げているか？」『地銀協月報』644 号 2014.2）はアベノミクスにより潜在成長

率を引き上げることができるかどうかが評価の基準となると考える。白川論文によると、日本経済は、①生産人口の縮小、②産業の空洞化、③非製造業の技術革新が向上しない状況の下では、生産能力が低下し潜在成長率はマイナス 0.2 から 0.3%となり、総需要が総供給を上回るインフレギャップが生じ、コストプッシュ型の「悪性インフレ」になる可能性があるという。そのような状況下で、アベノミクスの第 1 の矢である大胆な金融緩和はインフレ圧力を高め、一方賃金の上昇が遅れているため実質賃金の低下を補うため労働参加率を高め、潜在成長率にプラスの貢献をしている分析している。第 2 の矢である柔軟な財政政策については、投資減税、法人税減税は供給能力を高めるが、公共投資については、予算内容を見る限り供給能力を高める支出にはなっていないと指摘する。第 3 の矢である成長戦略については、外国人労働者の活用、農業の大規模化などによる労働移動の促進などコンセプトとしては適切であるがまだ具体性に欠けるため不透明であると考えている。

竹中平蔵論文（「国家戦略特区を改革の起

爆剤に！」『統計』65 巻 2 号 2014.2）は国家戦略特区を通じた規制緩和が重要であるという。世界銀行が発表している「規制環境」に関するランキングをみると、日本は、2000 年で世界第 40 位、その後、小泉政権下での改革で規制緩和が進み 2006 年では 28 位になったが、2011 年には 47 位と大きく後退している。竹中論文では、政府がなすべきことは、補助金や利子補給などを通じて政府が誘導するような「産業政策」ではなく、規制緩和を通じた健全な競争環境の整備であるという。アベノミクスが成功し、日本経済が成長経路に乗っていくためには「岩盤規制」といわれる強固な規制を新たに作られた「国家戦略特区」により突破していくことが重要であるという。

20 年以上続く景気の低迷はアジア、世界のなかでの日本のプレゼンスに大きな影響を与えている。グローバル化が進む中、財政の健全化をふまえつつ、思い切った大胆な規制緩和政策を推し進めることが日本経済を成長路線にのせるためには必要不可欠となろう。